

2025 年 6 月 27 日

留学報告書

南山大学長

ロバート・キサラ 殿

所 属 国際教養学部

職氏名 准教授 籠橋 一輝

留学先：Fenner School of Environment & Society, The Australian National University

(オーストラリア、オーストラリア首都特別地域・キャンベラ)

期 間：2023 年 9 月 1 日～2025 年 2 月 28 日

目 的：オーストラリアにおけるランドケアの持続可能性分析

本留学を通じて、以下の研究課題を遂行した。第 1 に、オーストラリアのランドケア運動の実態調査である。オーストラリア首都特別地域 (ACT)、タスマニア州、ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、南オーストラリア州、クイーンズランド州において、ランドケア活動に携わる人々や関連団体に聞き取り調査と、ランドケアの施行方法に関する実地視察を行った。この調査・視察を通じて、ローカルのランドケアグループが自律的に活動を展開するために必要な資源、資金、知識について包括的にデータを得ることができた。聞き取りを行った先進的なランドケアグループでは人的資本と自然資本への投資が活発に行われており、ローカル／地域レベルでの生産的基盤が拡大していることが示唆された。

第 2 に、ランドケアが環境政策として制度化されていくプロセスの中で、ローカルレベルのランドケアグループの自律性が阻害されていったことを明らかにした。連邦政府が達成目標を設定し、それを実現できるグループに選択的に補助金を提供したことで、多くのランドケアグループが自律的に保全活動を進めることが困難となったことを文献調査から明らかにした (籠橋, 2025)。

第 3 に、ローカルのランドケアグループの活動の自律性を評価するための枠組みを構築した。持続可能な経済発展論における資本資産と制度の枠組みを援用し、活動資金が人工資本・人的資本・自然資本に転化され、活用されるプロセスとして経営的自律性 (managerial autonomy) と機能的自律性 (functional autonomy) をモデル化した。これにより、ランドケアグループの自律性を維持するために、地域レベルのネットワークが果たす役割を理論的に明示することができた。

第 4 に、自然資本の代替不可能性の認識がランドケア活動に及ぼす影響について検討し

た。オーストラリアでは在来種と外来種の区別が明瞭であり、「在来であること」が自然資本の代替不可能性を強く規定している。さらに、こうした代替不可能性が強く認識されるほど、ランドケア活動が活発に行われる傾向が示唆された。ランドケア活動を展開するに当たって、代替不可能な自然資本（＝クリティカル自然資本）をどのように特定するかが鍵となる。

以上の研究活動を通じて、オーストラリアにおけるランドケアを持続可能性の観点から多角的に分析することができた。今後、これらの研究成果をさらに発展させていきたい。最後に、本留学の貴重な機会を与えて下さった国際教養学部ならびに南山大学の関係者の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

研究成果（計 8 件）

【単著】

1. 箆橋一輝（2024）『水と大地の環境学：持続可能性の根を求めて』晃洋書房、290 p.

【学術論文】

1. 箆橋一輝（2025）「豪州ランドケアの環境政策史と政策統合」（査読付き論文）『環境経済・政策研究』第 18 巻 1 号、pp. 14-25.

【寄稿】

1. 箆橋一輝・吉永明弘（2024）「「自然の価値」を論じなおす：関係価値と自然の代替不可能性——環境経済学と環境倫理学の対話」SYNODOS、2024 年 7 月 8 日。

URL: <https://synodos.jp/opinion/economy/29187/>

【研究発表】

1. Kagohashi, Kazuki (2023) “Community-Based Social Resilience: A Case of Drought Adaptation in Japan”, Tasmanian Community Landcare Conference 2023, Landcare Tasmania, Spring Bay Mill, 14 October 2023.
2. 箆橋一輝（2024）「オーストラリアのランドケア：「ケア」を通じたコモンズと持続可能性の接合」気象コモンズ研究会、オンライン開催、2024 年 1 月 18 日。
3. Kagohashi, Kazuki (2024) “Governing the Critical Natural Capital: A comparative analysis of drought adaptation in Japan and Landcare in Australia”, *Fenner Seminar*, Fenner School of Environment and Society, Australian National University, 21 February 2024.
4. 箆橋一輝（2024）「コミュニティから紡ぐ Nature Positive——豪州ランドケアの実践から考える」環境 3 学会合同シンポジウム 2024「Nature Positive: 実現に向けた方策の検討」、環境経済・政策学会、オンライン開催、2024 年 7 月 6 日。
5. Kagohashi, Kazuki (2025) “Autonomy, Sustainability and Landcare: How can we maintain the local landcare groups' autonomy?”, *Fenner Seminar*, Fenner School of Environment and Society, Australian National University, 17 March 2025.